研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-200		24-320	慶應義塾大学名誉教授　加藤眞三

題名（原題／訳）

Alcohol-Induced Activation of Chemokine System and Neuroinflammation Development
アルコールによるケモカイン系の活性化と神経炎症の発症

執筆者

Ekaterina V Mikhalitskaya [1] , Natalya M Vyalova [2] , Nikolay A Bokhan [2] , Svetlana A Ivanova [2]

掲載誌

Biochemistry (Mosc). 2024 Nov;89(11):1889-1903.　doi: 10.1134

キーワード	PMID
依存症、アルコール使用障害、ケモカイン、神経炎症	39647818

要　旨

ケモカインは、神経調節、神経発生、神経伝達に関与する多面的な機能を持つ免疫調節タンパク質である。 ケモカインが中枢神経系（CNS）に及ぼす影響は、アルコール使用障害の発症を含む CNS 機能に悪影響を及ぼす可能性のある様々な状態を調節する上で重要な役割を果たす。本総説では、動物モデルおよびアルコール依存症患者研究における、ケモカインがアルコール使用障害の病態形成、臨床症状、寛解に関与する問題に関する文献データを分析した。 提示された情報は、アルコール誘発性ケモカイン産生が慢性神経炎症を調節する可能性を示す仮説を裏付けるものである。したがって、本レビューで要約・提示したデータは、科学者と臨床専門家双方から求められる精神医学分野における重要な研究方向性に焦点を当てている。